

感覚運動医学講座 皮膚科学

1. 領域構成教職員・在職期間

教授	長谷川 稔	平成25年6月-
准教授	尾山 徳孝	平成30年4月-
講師	飯野 志郎	平成18年10月-平成18年12月, 平成24年4月- (平成29年8月-現職)
助教	井戸 英樹	平成16年8月-平成17年9月, 平成20年10月-
助教	知野 剛直	平成26年4月-
助教	馬場 夏希	令和3年12月-

2. 研究概要

研究概要

1) 全身性強皮症の臨床研究と新規治療法の開発
全身性強皮症（以下、強皮症と略）は、自己免疫異常を背景に全身に線維化、血管障害をきたす膠原病である。厚生労働省の難病に指定されており、いまだ治療法が十分に確立されていない。このため、当教室では患者の臨床データの多施設レジストリの解析を進めたり、強皮症の動物モデルを用いて新規治療の探索を続けている。

・厚生労働省の全身性強皮症の研究班において、2021年1月から国内の18施設でレジストリを立ち上げ、当教室が中心となってその集積を行なっている。また、以前の研究班で集めたレジストリのデータを再度利用して大学院生が解析したところ、4年後の皮膚硬化、間質性肺炎、身体機能のそれぞれを予測する因子が明らかとなった。この結果は2023年の国際会議で発表予定である。

・ケモカインを標的とした抗体治療 以前に2種類の強皮症のマウスモデルにおいて、ケモカインCX3CL1を阻害するモノクローナル抗体投与による治療効果を明らかにし、リウマチ研究のトップジャーナルに報告し、プレスリリースを行なった。その有用性をより確かなものとするために、別の強皮症モデルである皮膚硬化型慢性GVHDマウスモデルにおいても本抗体治療の有用性を検討した。このモデルでは、皮膚だけでなく、肺にも強皮症にみられるような線維化が生じるが、抗CX3CL1抗体治療は皮膚や肺の炎症や線維化を用量依存性に有意に抑制した。また、その機序についてもRNAシークエンスなどを用いて解析し、CX3CL1の受容体を発現するマクロファージや炎症・線維化と関連するサイトカインの組織での発現抑制を介して作用することが明らかとなった。この成果は、欧州や国内で開催された国際学会で口頭発表にも選出された。現在論文投稿中であり、我々の3種類の疾患マウスモデルでの有用性を根拠として、今後は実際の強皮症患者の臨床試験に発展させたい。

・上皮間葉移行を抑制する薬剤による新規治療 強皮症では、線維芽細胞だけでなく、血管内皮・周皮細胞、上皮細胞、脂肪細胞、骨髄由来のfibrocyteなどの前駆細胞が筋線維芽細胞などの間葉系細胞に移行して線維化が促進する可能性が指摘されている。我々は企業との共同研究の中で、独自の手法により上皮細胞が間葉系細胞に移行する系を阻害する1200種類以上の化合物の中からスクリーニングした。そして、そのひとつでクルクミン誘導体である化合物LG283の有用性をプレオマイシン誘導性強皮症マウスモデルやヒト線維芽細胞を用いて検討した。LG283の連日内服により皮膚硬化は有意に抑制され、特に副作用もみられなかった。LG283は、TGF- β による皮膚線維芽細胞からのコラーゲンやファイブロネクチンの産生を抑制した。また、上皮細胞や血管内皮細胞にTGF- β を添加して間葉系細胞への移行を誘導する検討において、LG283の添加は間葉移行を抑制した。本研究成果は、リウマチ研究の一流国際雑誌に掲載され、医学部の優秀論文にも選出された。他にも同様のスクリーニング法で抽出した市販薬のひとつ（市販薬A）が、プレオマイシン誘導性強皮症マウスモデルの炎症や線維化を有意に抑制することを認めており、drug repositioningの可能性を秘めている。現在その機序について検討を進めている。独自のスクリーニング法でスクリーニングされたHPH-15、LG283、市販薬Aの3つのいずれもが、これまで当教室のマウス実験で有効性を示しており、本薬剤スクリーニング法が全身性強皮症をはじめとする線維化疾患の治療薬の開発に有用と考えられる。

・カルバイン阻害薬による新規治療 細胞内Ca²⁺要求性プロテアーゼであるカルバインファミリーは、その生理活性が様々な疾患の病態に関与することが知られている。カルバイン阻害薬は、マウスにおいて肺線維化、皮膚の癬痕形成、血管障害などを軽減する報告があり、強皮症の線維化、血管障害の治療薬として有用な可能性がある。カルバイン阻害薬のひとつであるALLNを培養ヒト皮膚線維芽細胞に添加したところ、TGF- β によるSmad2/3のリン酸化が阻害され、コラーゲンやファイブロネクチンの産生が抑制された。そこで、プレオマイシン誘導性強皮症モデルに腹腔内注射を行うと、皮膚と肺の炎症や線維化が有意に軽減した。本研究成果は、米国と国内で開催された国際学会において口演に選出され、論文投稿中である。カルバインを標的とした治療薬はいまだ承認されたものがないが、全身性強皮症などの線維化疾患の治療薬としての有用性をさらに検証する予定である。

2) 表皮に発現する蛋白デルモカインの役割の検討

我々は、表皮の上層に特異的に発現する分泌蛋白であるデルモカインの役割に関して、デルモカイン β / γ 欠損マウスとデルモカイン α / β / γ 欠損マウスを作成して検討してきた。その結果、デルモカインは皮膚の正常な角化や乾癬などの病態の炎症制御など皮膚の恒常性維持に重要であることが明らかとなり、皮膚科学研究でも權威のある国際雑誌に掲載され、プレスリリースを行った。その後は、医学部の学生がこのプロジェクトを引き継ぎ、マウスのバックグラウンドにより、アトピー性皮膚炎や乾癬などの皮膚炎症性疾患におけるデルモカインの役割が異なるという興味深い知見を発見した。この結果は、これらの疾患に人種差がみられることの説明にもつながるかもしれない。5年に1回だけ世界の持ち回りで開催される世界研究皮膚科学学会が2023年5月に東京で開催されるが、この学生の演題が口頭発表に選ばれている。

3) 陰部皮膚カンジダ症に対する抗真菌剤含有石鹸の洗浄による治療

オムツ着用部位の皮膚カンジダ症の治療にミコナゾール含有石鹸を用いた洗浄が有用であることを前向き研究で明らかにし、これまでに2つの国際雑誌に発表し、プレスリリースを行った。その後、在宅医療における本治療法の有用性を特定臨床研究として進めており、症例がかなり集まってきている。本治療の有用性を証明することで、国内外の在宅医療に普及させることを目指している。

4) 有棘細胞癌の適切な切除マージンの検討

有棘細胞癌において、ガイドラインで推奨されている切除マージンと、それよりも縮小した切除マージンの手術の間で、予後に違いがみられるかどうかを1204例の多施設共同研究の筆頭者として大学院生が解析した。その結果、ガイドライン推奨のマージンを縮小しても、予後に影響しない可能性が示唆された。本成果は、皮膚科の一流雑誌に掲載され、医学部の優秀論文賞に採択された。また、別の大学院生は顔面の皮膚癌に対する二段階手術療法の有用性を明らかにし、国際雑誌に掲載された。

キーワード

強皮症、乾癬、アトピー性皮膚炎、皮膚腫瘍、新規治療、皮膚真菌症、在宅治療

業績年の進捗状況

いずれの研究も順調に進んでおり、着実に成果が出てきている。また、並行して新たなプロジェクトも立ち上げている。

特色等

当教室は、厚生労働省の指定難病である全身性強皮症という膠原病を臨床と研究の専門のひとつとしている。本疾患は、全身の線維化、血管障害を特徴とし、膠原病の中でも最も治療が難しく、予後不良の症例も少なくない。このため、新規治療の開発が必要で、臨床研究と基礎研究の両面から検討を行っている。臨床研究では、国内の専門施設に協力いただき、当教室がレジストリのとりまとめを行なっており、本疾患の自然経過や予後とそれらの予測因子、治療の動向の把握につとめており、研究成果を2023年の国際会議に報告予定である。基礎研究においては、以下のような3つのアプローチで検討を進めている。1) マクロファージなどの組織への細胞浸潤を誘導するケモカインのひとつであるCX3CL1を抑制する抗体治療、2) 1200種類以上からスクリーニングした上皮間葉移行を抑制する化合物や市販薬による治療、3) カルバイン阻害薬による治療。強皮症のマウスモデルにこれらの薬剤を投与したところ、線維化や血管障害を抑制する効果が確認され、問題となる副作用はみられなかった。将来的には、これらの薬剤を実際の強皮症患者や他の炎症性疾患や線維化疾患に投与する臨床試験へと発展させたい。また、薬剤の作用機序を検討する中で、強皮症の病態を明らかにする手がかりが得られるものと信じている。もうひとつの研究の大きな柱は、表皮に発現する糖蛋白デルモカインの役割の解明である。我々は、その役割をより明らかにするためにデルモカインの欠損マウスを世界に先駆けて作製し、その表現型を解析した。このマウスでは皮膚の保湿に重要なセラミドが減少し、角化と関連する様々な分子の発現に生じるため、毛が生えてくるまでは魚鱗癬のようなかさかさの皮膚を呈し、魚鱗癬などの角化異常疾患のモデルや病態解析に有用と考えられる。また、このマウスに代表的な皮膚炎症性疾患であるアトピー性皮膚炎、乾癬、接触皮膚炎などのモデルを誘導すると、乾癬のモデルでのみ野生型マウスに比べて悪化がみられることを以前に報告した。しかし今年度の検討で、バックグラウンドを変えることでアトピー性皮膚炎モデルがデルモカイン欠損マウスで悪化する場面があることを明らかにした。デルモカインは角化やバリア機能異常のみならず、免疫担当細胞にも作用して特定の炎症の抑制に作用しているものと考えられ、さらには背景となる免疫環境の違いによって作用が一部異なる可能性が示唆される。本研究は、皮膚の角化異常や炎症性疾患におけるバリア機能と免疫異常とのクロストークの解明の一助になると思われる。当教室はデルモカインの研究では世界のトップを走っており、デルモカインの発現を促進するような治療が、将来的に実際の皮膚疾患患者に有用となる可能性を秘めており、臨床的な意義も大きい。

本学の理念との関係

当教室では、その分野における最先端の臨床研究・基礎研究を推進しており、その研究成果を皮膚科学やリウマチ学の国際的なトップジャーナルに発表し、プレスリリースや記者説明会などで報告してきている。また、これらの研究を通して、地域、国、国際社会に貢献できる若手研究者の育成を行い、国際学会などでの報告も多い。研究の大半は、市販されていない治療薬や独自に作製した遺伝子欠損マウスを用いた独創性の高いものであり、難治性の膠原病や皮膚疾患における最新治療の開発につながりうるものである。これらのことから、当教室での研究内容は『物事の道理や本質を深く追求し、理解して、知識や学問を深め得ること』という意味を持つ本学の理念によく合致したものであり、その意義は大きいと考える。

3. 研究実績

区分	総数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
	2016～2021年分	2022年分	2016～2021年分	2022年分
和文原著論文	27	3	—	—
英文論文	ファーストオーサー	19	8	67.039(63.736)
	コソボ ヲ デ ィ ング オ ー サ ー	21	9	71.732(68.429)
	その他	18	1	68.582(68.582)
	合計	40	10	140.314(137.011)

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文（審査有）

- 2233141** Uesugi-Uchida S, Fujisaki M, Sekine S, Chino T, Oyama N, Hasegawa M: Non-episodic angioedema with eosinophilia developing after influenza vaccination, *J Dermatol.*, 50(3), e96-e97, 202303, DOI: 10.1111/1346-8138.16626 (症例報告), #3.468
- 2233142** Hasegawa T, Oyama N, Kasamatsu H, Chino T, Taga M, Hasegawa M: Intertriginous erythema associated with enfortumab vedotin, a nectin-4-targeting antibody-drug conjugate, in a case with metastatic urothelial cancer: Immunohistochemical evidence for molecular-targeted eruption., *J Dermatol.*, 49(12), e453-e454, 202212, DOI: 10.1111/1346-8138.16567, #3.468
- 2233143** A. Tsuji, K. Hiramatsu, S. Namikawa, A. Yamamoto, Y. Midori, Y. Murata, T. Tanaka, T. Nosaka, T. Naito, K. Takahashi, K. Ofuji, H. Matsuda, M. Ohtani, Y. Imamura, S. Iino, M. Hasegawa, Y. Nakamoto: A rare case of eosinophilic gastritis induced by nivolumab therapy for metastatic melanoma, *CLINICAL JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY*, 15(5), 876-880, 202210, DOI: 10.1007/s12328-022-01680-y (症例報告), #0.23
- 2233144** Iino S, Baba N, Hasegawa T, Kasamatsu H, Oyama N, Tokunaga T, Hasegawa M: Retrospective evaluation of the utility of two-step surgery for facial basal cell carcinoma and squamous cell carcinoma., *Front Surg.*, 9, 915731, 20220907, DOI: 10.3389/fsurg.2022.915731., #2.568
- 2233145** Fujisaki M, Hasegawa T, Oyama N, Yamaoka K, Anzai M, Hasegawa M: Erythema annulare centrifugum in the setting of COVID-19 infection: A case report and literature review, *J Cutan Immunol Allergy* ., 6(2), 57-58, 20220720, DOI: 10.1002/cia2.12274 (症例報告)
- 2233146** Itoh N, Yasutomi M, Oyama T, Hasegawa M, Ohshima Y: Progress of telangiectasia macularis eruptiva perstans exacerbated egg allergy, *Pediatrics International*, 64(1), e15235, 20220720, DOI: 10.1111/ped.15235, #1.617
- 2233147** Uesugi-Uchida S, Oyama N, Yoshida Y, Hasegawa M: Efficacy of topical adapalene monotherapy for symptomatic relief in a long-standing vulvar syringoma: A case report and literature review with treatment update., *J Cutan Immunol Allergy* ., 5(3), 97-99, 202206, DOI: 10.1002/cia2.12216 (症例報告), #0.14
- 2233148** Oyama N, Baba N, Ido H, Hasegawa M: A case of widespread unilateral subcutaneous sarcoidosis with ocular and pulmonary involvements with seropositivity for anti-double strand-DNA antibody and rheumatoid factor: A revisit of gap between humoral autoimmune abnormalities and clinical findings, *J Cutan Immunol Allergy* ., 5(6), 227-228, 20220508, DOI: 10.1002/cia2.12249 (症例報告)
- 2233149** Utsunomiya A, Chino T, Kasamatsu H, Hasegawa T, Utsunomiya N, Luong VH, Matsushita T, Sasaki Y, Ogura D, Niwa SI, Oyama N, Hasegawa M: The compound LG283 inhibits bleomycin-induced skin fibrosis via antagonizing TGF- β signaling., *Arthritis Res Ther.*, 24(1), 94-94, 20220429, DOI: 10.1186/s13075-022-02773-2, #5.606

b. 原著論文（審査無）

c. 原著論文（総説）

- 2233150** Oyama N, Hasegawa M: Lichen Sclerosus: A Current Landscape of Autoimmune and Genetic Interplay., *Diagnostics (Basel)*., 12(12), 3070-3070, 202212, DOI: 10.3390/diagnostics12123070., #3.992

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

- 2233151** Komura K, Hasegawa M: Ultrasound Visualizes Peripheral Vascular Dysfunction in Finger Pulp Blood Flow in Patients with Mixed Tissue Connective disease, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 193, 202212
- 2233152** Kasamatsu H, Chino T, Hasegawa T, Utsunomiya N, Utsunomiya A, Oyama N, Yamada M, Hasegawa M: Blockade of calpain enzymatic activity exerts anti-fibrotic effects in bleomycin-induced systemic sclerosis model mice, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 188, 202212
- 2233153** Nishimura K, Oyama N, Hasegawa T, Kasamatsu H, Chino T, Tokunaga T, Higashi K, Saito K, Yamada K, Hasegawa M: A serum N-linked glycan profile as a candidate biomarker for clinical management of psoriasis, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 217, 202212
- 2233154** Ebata S, Yoshizaki A, Oba K, Kashiwabara K, Ueda K, Uemura Y, Watadani T, Fukasawa T, Miura S, Yoshizaki-Ogawa A, Asano Y, Okiyama N, Koderu M, Hasegawa M, Sato S: Safety and efficacy of rituximab in systemic sclerosis (DESIREs): a double-blind, investigator-initiated, randomised, placebo-controlled trial, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 126, 202212
- 2233155** Oyama N: Lichen sclerosus et atrophicus: a current landscape of autoimmune and genetic enigma, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 152, 202212
- 2233156** Kasamatsu H, Chino T, Hasegawa T, Utsunomiya N, Utsunomiya A, Oyama N, Hasegawa M: Antifibrotic effects of a calpain inhibitor ALLN on bleomycin-induced systemic sclerosis model via antagonizing TGF- β /Smad signaling pathway, 51st ANNUAL ESDR MEETING, 202209
- 2233157** Masaki K, Haruta J, Hyakutake M, Sakashita M, Ogawa Y, Inomata T, Kan-o K, Sato S, Nakajima S, Fukushima A, Morita H, Kanzaki S, Fukunaga K, Ishizuka T, Oyama N, Kidoguchi M, Yasutomi M, Adachi T: Formation of an Interdisciplinary and Multidisciplinary Learning Community for Allergy Education, The 54th Annual Meeting of the Japan Society for Medical Education, 137-137, 202208
- 2233158** Iino S, baba N, Hasegawa T, Kasamatsu H, Oyama N, Tokunaga T, Hasegawa M: Retrospective evaluation of two-step surgery for facial non-melanoma skin malignancies, The 12th AsianDermatological Congress (ADC) Program Abstract., (013-03), 126-126, 202208
- 2233159** Nishimura K, Oyama N, Hasegawa T, Kasamatsu H, Chino T, Tokunaga T, Higashi K, Saito K, Yamada K, Hasegawa M: A serum N-glycan profile: a new candidate biomarker for clinical practice of psoriasis, The 12th AsianDermatological Congress (ADC) Program Abstract., (027-08), 154-154, 202208

2233160 Itoh N. Yasutomi M. Oyama N. Hasegawa M. Ohshima Y: A pediatric case of egg allergy exacerbated by progression of telangiectasia macularis eruptiva perstans, EAACI2022, 202207

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

2233161 長谷川 稔：硬化性苔癬：高橋健造、佐伯秀久：皮膚疾患 最新の治療 2023-2024, 榊南江堂, 111, 20230130, 978-4-524-23422-6

2233162 長谷川 稔：硬化性苔癬：常深祐一郎 渡辺大輔 宮地良樹：皮膚疾患診療第3版実践ガイド, 文光堂, 775-777, 20220508, 978-4-8306-3478-9

2233163 長谷川 稔：リウマチ性疾患の皮膚病変のみかた：日本リウマチ財団 教育研修委員会 日本リウマチ学会 生涯教育委員会：リウマチ病学テキスト, 南江堂, 68-75, 20220505, 978-4-524-23158-4

c. 編集・編集・監修

(4) 和文：論文等

a. 原著論文（審査有）

2233164 宗石依子、尾山徳孝、長谷川 稔：初経前の女兒に発症し、マクロライドとテトラサイクリンの内服が奏効したgranulomatous periorificial dermatitis, 日本小児皮膚科学会雑誌, 42(1), 57-63, 202301 (症例報告)

2233165 福田英美里、宮永美紀、位田奈緒子、細野奈穂子、尾山徳孝、長谷川 稔：アセトアミノフェンが原因と考えられた急性汎発性発疹性膿疱症の1例—本罪による薬剤リハビリ試験の本邦報告例のまとめ—, 皮膚科の臨床, 64(9), 1513-1517, 202208, DOI: 10.18888/hi.0000003478 (症例報告)

2233166 内田 沙織、吉田 康幸、北風 光平、笠松 宏至、尾山 徳孝、長谷川 稔：【(新規)抗腫瘍薬～光と影～】多剤化学療法に抵抗性を示し、プレニツキシマブ ベドチン単独療法が奏効した原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫, 皮膚病診療, 44(5), 420-423, 202205, DOI: 10.24733/pd.0000002915

b. 原著論文（審査無）

c. 総説

d. その他研究等実績（報告書を含む）

2233167 長谷川 稔：全身性強皮症におけるB細胞とマクロファージの役割, リウマチ科, 69(1), 106-112, 202301

2233168 長谷川 稔：逆Gottron徴候, 皮膚病診療, 44(13), 26-26, 202212, DOI: 10.24733/pd.0000003133

2233169 飯野志郎：皮膚エリテマトーデスの病理組織学的所見, 日本皮膚科学会雑誌, 132(10), 2297-2303, 202209, DOI: 10.14924/dermatol.132.2297

2233170 尾山徳孝：アレルギー診療スキルアップ講座 (No. 4) アトピー性皮膚炎 ベーシック, 新薬と臨床, 71(8), 848-854, 202208

2233171 八代 浩、長谷川義典、関根史織：当院での下肢静脈瘤に対するシアノアクリレートグルー治療の短期成績, 日本皮膚外科学会誌, 26(1), 58-59, 202207

2233172 尾山徳孝：皮膚科専門医のための模擬テスト5—解答と解説—, DERMATOLOGY皮膚科, 1(6), 842-844, 202206

2233173 牧野雄成、長谷川 稔、藤本 学：多施設患者登録システムによる、全身性強皮症の臨床像、自然経過、進行予測、病因、治療反応性の解析, 令和3年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究 令和3年度 総括・分担研究報告書, 84-85, 202205

2233174 長谷川稔：全身性エリテマトーデス II. 主要臓器病変の診断・治療の進歩 SLEの皮膚病変, 日本臨床, 80(5), 744-750, 202205

2233175 長谷川 稔、浅野善英、植田郁子、冲山奈緒子、川口鎮司、熊ノ郷 淳、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、高橋裕樹、波多野 将、濱口儒人、牧野雄成、茂木精一郎、山本俊幸、松下貴史、金谷泰宏、嶋 良仁、安岡秀剛、田中住明、麦井直樹、藤本 学：多施設共同による全身性強皮症の臨床像、自然経過、進行予測、治療反応性の解析, 令和3年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究 令和3年度 総括・分担研究報告書, 69-73, 202205

2233176 尾山徳孝：皮膚科専門医のための模擬テスト5, DERMATOLOGY皮膚科, 1(5), 714-716, 202205

2233177 藤本 学、浅野善英、植田郁子、冲山奈緒子、川口鎮司、熊ノ郷 淳、桑名正隆、後藤大輔、神人正寿、高橋裕樹、長谷川 稔、波多野 将、濱口儒人、牧野雄成、茂木精一郎、山本俊幸、磯村洋平、金谷泰宏、金子詩子、嶋 良仁、清水正樹、田中住明、牧 尚孝、松下貴史、宮前多佳子、麦井直樹、安岡秀剛：強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究, 令和3年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業 強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究 令和3年度 総括・分担研究報告書, 1-9, 202205

2233178 長谷川稔：【病態から考える薬物療法】(第1X章)血管炎・血管障害 ANCA関連血管炎, 皮膚科の臨床, 64(5), 799-803, 202204, DOI: 10.18888/hi.0000003269

2233179 長谷川稔：血管変化を鋭敏に検出するキャピラスコピーの活用 膠原病診療において, DERMATOLOGY 皮膚科, 1(4), 517-524, 20220428

e. 国際会議論文

業績一覧

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

2233180 Oyama N: Lichen sclerosus et atrophicus: a current landscape of autoimmune and genetic enigma. The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 20221202, フォラム・抄録集, 152

2233181 Komura K, Hasegawa M: Ultrasound Visualizes Peripheral Vascular Dysfunction in Finger Pulp Blood Flow in Patients with Mixed Tissue Connective disease, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 20221202, フォラム・抄録集, 193

2233182 Ebata S, Yoshizaki A, Oba K, Kashiwabara K, Ueda K, Uemura Y, Watadani T, Fukasawa T, Miura S, Yoshizaki-Ogawa A, Asano Y, Okiyama N, Koderia M, Hasegawa M, Sato S: Safety and efficacy of rituximab in systemic sclerosis (DESIREs): a double-blind, investigator-initiated, randomised, placebo-controlled trial, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 20221202, フォラム・抄録集, 126

2233183 kasamatsu H, Chino T, Hasegawa T, Utsunomiya N, Utsunomiya A, Oyama N, Yamada M, Hasegawa M: Blockade of calpain enzymatic activity exerts anti-fibrotic effects in bleomycin-induced systemic sclerosis model mice, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 20221202, フォラム・抄録集, 188

2233184 Nishimura K, Oyama N, Hasegawa T, Kasamatsu H, Chino T, Tokunaga T, Higashi K, Saito K, Yamada K, Hasegawa M: A serum N-linked glycan profile as a candidate biomarker for clinical management of psoriasis, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 20221202, フォラム・抄録集, 217

d. 一般講演（ポスター）

2233185 Komura K, Hasegawa M: Ultrasound Visualizes Peripheral Vascular Dysfunction in Finger Pulp Blood Flow in Patients with Mixed Tissue Connective disease, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 20221202, フォラム・抄録集, 193

2233186 Nishimura K, Oyama N, Hasegawa T, Kasamatsu H, Chino T, Tokunaga T, Higashi K, Saito K, Yamada K, Hasegawa M: A serum N-linked glycan profile as a candidate biomarker for clinical management of psoriasis, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 20221202, フォラム・抄録集, 217

2233187 kasamatsu H, Chino T, Hasegawa T, Utsunomiya N, Utsunomiya A, Oyama N, Yamada M, Hasegawa M: Blockade of calpain enzymatic activity exerts anti-fibrotic effects in bleomycin-induced systemic sclerosis model mice, The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, 20221202, フォラム・抄録集, 188

e. 一般講演

f. その他

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

2233188 長谷川 稔: 膠原病を見逃さないために～確認が必要な皮膚所見～, 第52回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会, 20220618, フォラム・抄録集, 27

b. シンポジスト・パネリスト等

2233189 尾山徳孝: 皮膚バリア障害から考えるアレルギー, 第52回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会, 20220618, フォラム・抄録集, 41

c. 一般講演（口演）

2233190 長谷川 稔: 全身性強皮症の診断・治療における皮膚科医の役割, 第38回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会, 20220423, フォラム・抄録集, 307

2233191 藤崎美沙子, 宗石依子, 笠松宏至, 宇都宮 慧, 尾山徳孝, 長谷川 稔, 山口智久, 吉田康幸, 小西里沙, 市村裕輝, 沖山奈緒子: 広範な皮下脂肪織炎を伴った抗SAE抗体陽性皮膚筋炎の1例, 第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会, 20221216, フォラム・抄録集, 195

2233192 長谷川 稔: ダーモスコピーでみる爪郭部の毛細血管異常, 第121回日本皮膚科学会総会, 20220602, フォラム・抄録集, 1127

2233193 関根史織, 尾山徳孝, 長谷川 稔, 井尾浩一, 布施田哲也: 周期性発熱と外陰部潰瘍にコルヒチンが奏効したPFAPA症候群疑いの女児例; ペーチェット病との異同について, 第5回日本ペーチェット病学会, 20221105, フォラム・抄録集, 13

2233194 正木克宜, 坂下雅文, 小川 靖, 猪俣武範, 神尾敬子, 佐藤さくら, 中島紗恵子, 福島敦樹, 森田英明, 神崎 晶, 福永興壱, 石塚 全, 尾山徳孝, 木戸口正典, 安富素子, 足立剛也: 多職種が集うリカレント教育の重要性: アレルギー診療ITC教育（出前授業による教育の機会創出事業）活動と展望, 第71回日本アレルギー学会学術大会, 20221007, フォラム・抄録集, 839

2233195 北風光平, 西村健太郎, 関根史織, 笠松宏至, 尾山徳孝, 長谷川 稔, 畑 郁江: 出産を契機に再燃した遺伝性血管性浮腫2型に対し、ベロトラルスタット内服とイカチバント皮下注射の併用が発作予防と症状抑制に有効であった女性例, 第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会, 20221216, フォラム・抄録集, 180

d. 一般講演（ポスター）

2233196 西村健太郎, 尾山徳孝, 長谷川 巧, 笠松宏至, 知野剛直, 長谷川 稔, 徳永貴広, 東 清史, 斎藤幸一, 山田佳大: 血清中N結合型糖鎖プロファイル分析による乾癬の新規バイオマーカーの探索, 第50回日本臨床免疫学会総会, 20221013, フォラム・抄録集, 99

e. 一般講演

f. その他

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

2233197

岡村咲由莉、笠松宏至、近澤 亮、竹内一喬、三田村康仁、福本雄太、長谷川 稔：高齢で診断した小麦による食事依存性運動誘発アナフィラキシーの1例、日本皮膚科学会北陸地方会第477回例会、20230219、プログラム・抄録集、1

2233198

岡村咲由莉、関根史織、馬場夏希、坂井秀彰、尾山徳孝、長谷川 稔：発症後に急速に拡大し、生検後に自然消退傾向にあるWells症候群の疑いの1例、第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会、20221119、プログラム・抄録集、224

2233199

関根史織、尾山徳孝、長谷川 稔、井尾浩一、布施田哲也：周期性発熱と外陰部潰瘍にコルヒチンが奏効したPFAPA症候群疑いの女児例、第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会、20221029、プログラム・抄録集、157

2233200

長谷川 稔、宗石依子、山内悠大、尾山徳孝：合併した顎関節炎にもプロダルマブが奏効した関節症乾癬の1例、第111回日本皮膚科学会群馬地方会 茂木精一郎教授就任記念大会、20221105、プログラム・抄録集、12

2233201

東田晋太郎、小高愛莉奈、尾山徳孝、長谷川 稔、岩崎博道、坂井秀彰：メトトレキサート（MTX）の休薬で消退したMTX関連リンパ増殖性疾患の1例、日本皮膚科学会北陸地方会第477回例会、20230219、プログラム・抄録集、3

2233202

小高愛莉奈、飯野志郎、藤崎美沙子、馬場夏希、尾山徳孝、長谷川 稔、米元菜採、木村純也、福島万奈、今村好章、八代 浩：悪性末梢神経鞘腫瘍との鑑別を要した腰部悪性黒色腫の1例、日本皮膚科学会北陸地方会第477回例会、20230219、プログラム・抄録集、4

2233203

藤崎美沙子、宗石依子、笠松宏至、宇都宮 慧、尾山徳孝、長谷川 稔、山口智久、吉田康幸、小西里沙、市村裕輝、沖山奈緒子：広範な皮下脂肪織炎を伴った抗SAE抗体陽性皮膚筋炎の1例、第138回福井県皮膚科医会例会、20230316

2233204

内田沙織、藤崎美沙子、関根史織、知野剛直、尾山徳孝、長谷川 稔、清水千尋、三澤利博：インフルエンザHAワクチン接種後に発症した非反復性好酸球性血管性浮腫の高齢者の1例、第74回日本皮膚科学会西部支部学術大会、20221022、プログラム・抄録集、130

2233205

馬場夏希、関根史織、山内悠大、尾山徳孝、長谷川 稔、坂井秀彰：CD8陽性pagetoid reticulosisの1例、第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会、20221029、プログラム・抄録集、135

2233206

小村一浩、長谷川 稔：カラードップラー超音波3D像で指先部の血流低下が認められた混合性結合組織病の1例、第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会、20221029、プログラム・抄録集、146

2233207

岡村咲由莉、飯野志郎、関根史織、馬場夏希、坂井秀彰、尾山徳孝、長谷川 稔：発症後に急速に拡大し、生検後に自然消退した好酸球性蜂窩織炎（Wells症候群）の1例、日本アレルギー学会北陸支部第4回地方会、20221123、プログラム・抄録集、10

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(4) その他の研究会・集會

a. 招待・特別講演等

2233208

長谷川 稔：皮膚から全身をみる～SLE・強皮症・皮膚筋炎～、第14回膠原病のリハビリテーション勉強会、20221127

2233209

尾山 徳孝：バイオ製剤免疫原性の理解と誤解、Dermatology Web seminar、20221117

2233210

尾山 徳孝：エフィナコナゾール外用液刷毛（ハケ）の形状変化と衛生面の評価、長久手皮膚科セミナー、20230125

2233211

長谷川 稔：デルモカインの皮膚のバリア、炎症における役割、第37回角化症研究会、20220730、プログラム、3

2233212

長谷川 稔：エリテマトーデスの最新の話題～皮膚病変を中心に～、第2回Lupus Erythematosus Expert Seminar、20221003

2233213

長谷川 稔：膠原病の臨床研究から基礎研究まで、Expert Derma seminar、20230227

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

2233214

長谷川 稔：全身性強皮症～最新の話題～、膠原病内科WEBセミナー～強皮症について考える～、20220720

2233215

尾山徳孝：新ガイドラインから診るアトピー性皮膚炎治療について、Cross Allergic Immunology Web @ 福井、20220407

2233216

長谷川 稔：全身性強皮症の皮膚病変 ～診断から治療へ～、皮膚科診療 Up-to-Date オンライン、20221027

2233217

飯野 志郎：基礎から学ぶ壊死性軟部組織感染症の診断と治療、第25回北陸皮膚科セミナー、20220529

2233218

山内悠大：ヒドロキシクロロキンが有効であった網状紅斑性ムチン沈着症の1例、第7回Skin Disease Research Conference、20221108

業績一覧

- 2233219 長谷川 稔: 変化を遂げるSLEの治療, Dermatology SLE Expert Conference, 20220921
- 2233220 長谷川 稔: 皮膚から理解する強皮症の血管病変, 結合組織病の合併症を考えるWebセミナー〜循環器内科医と皮膚科医の立場から〜, 20220519
- 2233221 尾山 徳孝: 抗ヒスタミン剤: エビデンスの功罪, 第7回Skin Disease Research Conference, 20221108
- 2233222 尾山 徳孝: JAK阻害薬の軌跡とデュークラバシチニブへの期待, 第9回Skin Disease Research Conference, 20230309
- 2233223 長谷川 稔: 膠原病を見逃さないために〜重要な皮膚所見〜, 皮膚科・膠原病感染症内科 診療連携カンファレンス, 20221012
- 2233224 笠松 宏至: 全身性強皮症におけるカルバイン阻害剤の有用性の検討, 第11回皮膚科最新医療研究会のご案内, 20220916
- 2233225 尾山 徳孝: 乾癬の病態とデュークラバシチニブの作用機序について, ソーティクツ販売記念講演会, 20230224
- 2233226 尾山徳孝: アトピー性皮膚炎, 公開講座 ウィズコロナ時代のアレルギー福井県鼻の日保健大会講演会, 20220811
- 2233227 長谷川 稔: 皮膚症状を主体とした皮膚筋炎の話題, 第9回Skin Disease Research Conference, 20230309
- 2233228 長谷川 稔: 「小児アトピー性皮膚炎治療の最前線」〜新たな治療選択肢を生かして〜, 第375回沖縄皮膚科勉強会, 20220526
- 2233229 尾山徳孝: エフィナコナゾール外用液刷毛デバイスの使用中における形状変化と衛生面の評価, 第2回福井皮膚疾患・創傷治癒研究会, 20220723
- 2233230 長谷川 稔: 全身性強皮症の病態と診療, ABENO Conference, 20230131
- 2233231 尾山徳孝: 外陰部の皮膚疾患〜鑑別と最新の知見〜, 皮膚科若手医師のための「診断力向上」セミナー, 20220527

f. その他

(C) 特許等

区分	内容 (発明の名称)	発明者又は考案者
----	------------	----------

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額 (配分額)
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額 (配分額)
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	全身性強皮症における新たな治療: 抗フラクタルカイン抗体の実用に向けて	長谷川 巧		20200401-20230331	¥1,040,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	硬化性萎縮性苔癬における細胞外基質への免疫異常を発端とした新たな癌化機構の解明	宇都宮 夏子		20200401-20230331	¥1,040,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	内皮間葉移行阻害薬の探索と強皮症治療への応用	長谷川 稔		20220401-20250331	¥1,690,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	新たな魚鱗癬モデルマウスを用いた胎児治療への挑戦	知野 剛直		20220401-20250331	¥1,950,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	皮膚癌の微小環境における免疫逃避と進展に関わる細胞外基質の役割の解明	尾山 徳孝		20210401-20240331	¥1,170,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	悪性黒色腫の病態に関わるdermokineの役割の解明	宇都宮 慧		20210401-20240331	¥1,560,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	ドラッグ・リポジショニングによる全身性強皮症の新規治療薬の開発	加藤 卓浩		20200401-20230331	¥910,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	カルバイン阻害剤による全身性強皮症の新たな治療戦略	笠松 宏至		20200401-20230331	¥910,000
区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額	
共同研究	株式会社カン研究所	皮膚疾患におけるケモカインの役割の解析	長谷川 稔, 宇都宮 慧, 知野 剛直, 尾山 徳孝	20170401-20230331	¥0	
共同研究	リンク・ジェノミクス株式会社	全身性強皮症治療剤に関する研究	長谷川 稔	20200106-20240331	¥0	
区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額	
受託研究	セーレン株式会社	セリシン定着製品の着脱効果検証	四谷 淳子, 長谷川 稔, 山下 義裕, 青木 未来	20230125-20230929	¥409,240	

(B) 奨学寄附金

受入件数	15
受入金額	¥8,400,000

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
国内学会(地方レベル)	主催者	日本皮膚科学会北陸地方会第477回例会	20230219-20230219	金沢市
国内学会(地方レベル)	主催者	日本皮膚科学会北陸地方会第475回例会 福井県分科会	20220904-20220904	福井市

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本免疫学会	一般会員	長谷川 稔
東アジア皮膚科会議	評議員	長谷川 稔
日本リウマチ学会	一般会員	長谷川 稔
日本乾癬学会	評議員	長谷川 稔
日本皮膚悪性腫瘍学会	評議員	長谷川 稔
日本臨床免疫学会	評議員	長谷川 稔
日本研究皮膚科学会	評議員	長谷川 稔
日本小児皮膚科学会	運営委員	長谷川 稔
日本白斑学会	評議員	長谷川 稔
日本皮膚免疫アレルギー学会	理事	長谷川 稔
米国リウマチ学会	一般会員	長谷川 稔
米国研究皮膚科学会	一般会員	長谷川 稔
Eastern Asia Dermatology Congress	Council member	長谷川 稔
日本皮膚科学会	理事	長谷川 稔
Asian Dermatological Association	Council member	長谷川 稔
アジア皮膚科学会	評議員	長谷川 稔
日本アレルギー学会	一般会員	尾山 徳孝
日本小児皮膚科学会	一般会員	尾山 徳孝
日本臨床皮膚科学会	一般会員	尾山 徳孝
日本乾癬学会	一般会員	尾山 徳孝
日本光医学・光生物学会	一般会員	尾山 徳孝
日本ペーチェット病学会	一般会員	尾山 徳孝
国際ペーチェット病学会	一般会員	尾山 徳孝
国際食品機能学会	一般会員	尾山 徳孝
日本研究皮膚科学会	評議員	尾山 徳孝
日本人類遺伝学会	一般会員	尾山 徳孝
日本臨床免疫学会	一般会員	尾山 徳孝
日本皮膚免疫アレルギー学会	一般会員	尾山 徳孝
日本皮膚科学会	一般会員	尾山 徳孝
日本皮膚外科学会	評議員	飯野 志郎
日本皮膚病理組織学会	一般会員	飯野 志郎
日本皮膚科学会	一般会員	飯野 志郎
日本悪性腫瘍学会	一般会員	飯野 志郎
日本皮膚科学会	一般会員	井戸 英樹
日本皮膚病理組織学会	一般会員	井戸 英樹
日本研究皮膚科学会	一般会員	知野 剛直
日本乾癬学会	一般会員	知野 剛直
日本臨床免疫学会	一般会員	知野 剛直
日本人類遺伝子学会	一般会員	知野 剛直
日本皮膚悪性腫瘍学会	一般会員	知野 剛直
日本免疫学会	一般会員	知野 剛直
日本皮膚科学会	一般会員	馬場 夏希
日本皮膚外科学会	一般会員	馬場 夏希
日本皮膚悪性腫瘍学会	一般会員	馬場 夏希
日本フットケア学会足病医学会	一般会員	馬場 夏希

(C) 座長

国内学会(全国レベル)	学会名	氏名
招待・特別講演等	ソーティクツ販売記念講演会	長谷川 稔
一般講演(口演)	第121回日本皮膚科学会総会	長谷川 稔
シンポジウム等	第121回日本皮膚科学会総会	長谷川 稔
一般講演	福井県皮膚疾患フォーラム ラビフォートワ イブ発売記念講演	長谷川 稔
一般講演	第7回Skin Disease Research Conference	長谷川 稔
一般講演	強皮症に伴う血管障害を考えるWEB Seminar	長谷川 稔
一般講演	福井県炎症性皮膚疾患Webセミナー	長谷川 稔
一般講演	福井県炎症性皮膚疾患Webセミナー	長谷川 稔
その他	The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology	長谷川 稔
シンポジウム等	The 47th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology	長谷川 稔

業績一覧

招待・特別講演等	第2回 Sun Derma Seminar in 福井	長谷川 稔
シンポジウム等	第52回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会	長谷川 稔
一般講演	爪白癬治療を再考するin福井	長谷川 稔
一般講演	遺伝性血管性浮腫(HAE) Web Seminar Tokai Hokuriku	長谷川 稔
一般講演(口演)	第121回日本皮膚科学会総会	長谷川 稔
一般講演	A-RISE福井県炎症性皮膚疾患セミナー	長谷川 稔
一般講演	日本皮膚科学会北陸地方会第475回例会 福井県分科会	長谷川 稔
招待・特別講演等	研究検査A-Cubeの案内セミナー	長谷川 稔
一般講演	全身性強皮症WEB講演	長谷川 稔
一般講演	爪白癬治療WEBセミナー in 福井	長谷川 稔
招待・特別講演等	Atopic Dermatitis Expert Meeting in 福井	長谷川 稔
その他	今後のAD治療を考える会	長谷川 稔
招待・特別講演等	第2回福井皮膚疾患・創傷治癒研究会	長谷川 稔
招待・特別講演等	爪白癬治療セミナーin福井	長谷川 稔
一般講演(口演)	第37回日本乾癬学会学術大会	長谷川 稔
一般講演(口演)	第11回皮膚科最新医療研究会	長谷川 稔
一般講演	Dermatology Web Seminar in Fukui	長谷川 稔
一般講演	第25回北陸皮膚科セミナー	長谷川 稔
一般講演	Dermatology Web Seminar in Fukui	長谷川 稔
招待・特別講演等	北陸皮膚アレルギー研究会2022	長谷川 稔
一般講演	今後のAD治療を考える会	長谷川 稔
一般講演(口演)	The 12th AsianDermatological Congress (ADC)	長谷川 稔
シンポジウム等	The 12th AsianDermatological Congress (ADC)	長谷川 稔
一般講演	モイゼルト軟膏発売記念講演会in福井	長谷川 稔
シンポジウム等	日本皮膚科学会北陸地方会第477回例会	長谷川 稔
一般講演	皮膚疾患に伴う間質性肺疾患診療の進歩	長谷川 稔
一般講演	パッチテストセミナーin福井(ミニハンズオン)	長谷川 稔
一般講演	ミーチガ WEBライブセミナー	長谷川 稔
一般講演	第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会	長谷川 稔
シンポジウム等	第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会	長谷川 稔
シンポジウム等	第111回日本皮膚科学会群馬地方会 茂木精一郎教授就任記念大会	長谷川 稔
一般講演	A-RISE福井県炎症性皮膚疾患セミナー	尾山 徳孝
一般講演(口演)	第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会	尾山 徳孝
一般講演	第8回 Skin Disease Research Conference	尾山 徳孝
一般講演	第2回 Sun Derma Seminar in 福井	尾山 徳孝
一般講演	FUKUI Dermatology Seminar	尾山 徳孝
一般講演(口演)	日本アレルギー学会北陸支部第4回地方会	尾山 徳孝
一般講演(口演)	日本皮膚科学会北陸地方会第477回例会	尾山 徳孝
その他	第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会	飯野 志郎
一般講演(口演)	日本皮膚科学会北陸地方会第474回例会	飯野 志郎
一般講演(口演)	第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会	飯野 志郎
一般講演(口演)	第37回日本皮膚科学会総会・学術集会	飯野 志郎

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長(主査)・委員の別	氏名	査読編数
Immunol Med	査読		長谷川 稔	1
Mod Rheumatol Case Rep	査読		長谷川 稔	1
PLOS ONE	査読		長谷川 稔	1
Eur J Dermatol	査読		長谷川 稔	2
Exp Dermatol	査読		長谷川 稔	1
J Sclero Relat	査読		長谷川 稔	1

業績一覧

J Dermatol	査読		長谷川 稔	3
J Invest Dermatol	査読		長谷川 稔	1
Lab Invest	査読		長谷川 稔	1
Rheumatology	査読		長谷川 稔	2
RMD open	査読		長谷川 稔	1
J Eur Acad Dermatol Venereol	査読		長谷川 稔	1
Front Immunol	査読		長谷川 稔	3
月刊皮膚科	編集	委員	長谷川 稔	
J Dermatol	編集	委員	長谷川 稔	
Front Immunol	編集	委員	長谷川 稔	
J Dermatol	査読		尾山 徳孝	7
J Cutan Immunol Allergy	査読		尾山 徳孝	4
Sarcoid Vas Dif Lung Dis	査読		尾山 徳孝	2
J Dermatol Sci	査読		尾山 徳孝	2
JAMA Dermatol	査読		尾山 徳孝	2
Eur J Dermatol	査読		尾山 徳孝	2
Open Dermatol	査読		尾山 徳孝	2
Open Dermatol J	編集	委員	尾山 徳孝	

(E) その他